

皆様おはようございます。先週はロシアがウクライナに侵攻したというショッキングなニュースが飛び込んで参りました。

武力によって、人の命が奪われている。互いに命が失われているというその現在進行形の事実、心から痛みを覚え、そして戦争が一刻も早く終わるように皆様で心合わせ、祈って参りましょう。

小さな女の子が涙を流してどうしてこんなことになるんだ、死ぬのは嫌だと言って泣いていたその映像が頭から離れません。世界の平和がどのようにして訪れるのか、それはあらゆる立場の違いが渦巻く国際社会の中では非常に難しいことですが、多くの人の祈りに神様が御業を来たらせてくださり、この殺し合いが一刻も早く終わりますように、私たちも熱く祈って参りたいと思います。

私が洗礼を受けたとき、心に響いた聖書の言葉があります。ヤコブの手紙の4章ですけれども、こうあります。

4:1 何が原因で、あなたがたの間に戦いや争いが起こるのですか。あなたがた自身の内部で争い合う欲望が、その原因ではありませんか。

4:2 あなたがたは、欲しても得られず、人を殺します。また、熱望しても手に入れることができず、争ったり戦ったりします。得られないのは、願い求めないからで、

4:3 願い求めても、与えられないのは、自分の楽しみのために使おうと、間違った動機で願い求めるからです。

「何が原因で、あなたがたの間に戦いや争いが起こるのですか。あなたがた自身の内部で争い合う欲望が、その原因ではありませんか」この世界にある問題や戦争、いがみ合い憎しみ合い。どうしたらこの世の中が良くなるのかと思う私に、聖書はあなたの心の中にある欲望が、罪が原因ではないですかと迫ってきました。

そして私はイエス様の十字架を受け入れたいと願いました。罪という言葉は、元々の意味は的外れという意味があるそうです。創世記2-3章にありますけれども神様は人に「善悪の知識の木から決して食べてはならない 食べると必ず死んでしまう」と神様はおっしゃいました。しかし悪魔である蛇は人に、決して死ぬことはない、それを食べると目が開け神様のように善悪を知る者となること神はご存じなのでそうはさせまいと、それを妨げてただけなんだと、そういう風に蛇は人をそそのかしました。そして人は神の言葉を信ずるよりむしろこの蛇の言葉を信じ、そして、してはならない、神のお言いつけを破った、的外れの、まさに的外れの行動を人はしてしまいました。そうしてエデンの園から人は追放されることになりました。さばきとして女性に産みの苦しみが与えられまた人には顔に汗してパンを得る 労働の苦しみが与えられました。

私たちは今ヨハネによる福音書を読み進めております。6章ではイエス様が男性だけでも5000人に食べ物を与えるという出来事をなさった出来事が記してありました。そしてそれから人々はイエス様の後を追ってその行かれるところどこへでもついて行きました。イエス様は彼らのことをこう言われました。

「はっきり言うておく。あなた方が私を探しているのはしるしを見たからではなくパンを食べて満腹したからである。」このしるしというのは奇跡的なしるしという意味ですが、イエス様が神のもとから遣わされたメシア救い主であるというしるしを意味しています。その手渡そうとしている救いを求めずに、そのしるしを求めずに、私たちはお腹を満たすパンを得

られればそれで十分だから、イエス様のそばにしようと、人々はそのような思いでイエス様の側に付き従っていました。

「人は顔に汗してパンを得なければならない」。生きていくのは大変なことです。しかしそれはもともとは人が的を外れの罪を犯したからでした。神様のおいつけよりも、私たちの破滅を願う者の唆しに耳を傾け、自分の願い、自分の欲望、自分の思いのために生きる。人を退けてでも倒してでも命を奪ってでも得ようとする、その的を外れの気持ちに聞き従って神の言葉を聞かないという、その問題によることでした。こうして神の恵みの所から追い出され、そして額に汗してパンを得なければならないということはすべて罪のなせる結末でありました。

イエス様がそんな人間に私は命のパンであると言われるということ。「私は天から降ってきた生きたパンである。このパンを食べるなら 永遠に生きる」と語られたのです。私を与えるパンとは、イエス様の肉体のこと、命のことであるとおっしゃるのです。

51節の言葉「わたしは、天から降って来た生きたパンである。このパンを食べるならば、その人は永遠に生きる。わたしが与えるパンとは、世を生かすためのわたしの肉のことである。」は、まさしくご自分の命を、愛を捧げて血潮を流して十字架にかかって世を生かすために、私たちの罪を贖い、永遠の命に生きることができるよう、昔あの祝福の中に人が神と共にあったあたたかき良き出来事に人を帰らせるための神様の贖いの御業なのでした。

そのイエス様の、身を捧げ人のためのパンとして飲み物として肉体を捧げ血潮捧げ 人を救うんだというそのイエス様の覚悟と愛の溢れる 御言葉を今日も一緒に味わって参りたいと願っております

41節 「ユダヤ人たちは、イエスが「わたしは天から降って来たパンである」と言われたので、イエスのことをつぶやき始め、

6:42 こう言った。「これはヨセフの息子のイエスではないか。我々はその父も母も知っている。どうして今、『わたしは天から降って来た』などと言うのか。」

「天から降ってきた」というこの言葉に彼らは反応いたしました。

ヨセフとマリアの子、ガリラヤのナザレの一人のせがれにすぎないじゃないか。何が天から降ってきたとか、神の元から来たヒーローのような、特別な存在のようなこと言って、とんでもないこと言うものだと言ったと彼らはそのように思いました。

彼らは目に見えるパンのことばかり考え、人として現れているというマリアとヨセフの子として、他の人と同じような人として生まれているということに目を留めましたが、神様の真実における深い所に思いを馳せようとはしていませんでした。

43 イエスは答えて言われた。「つぶやき合うのはやめなさい。

44 わたしをお遣わしになった父が引き寄せてくださらなければ、だれもわたしのもとへ来ることはできない。わたしはその人を終わりの日に復活させる。

ヨハネによる福音書3章にて、イエス様のニコデモとの会話が記されています。

3:3 イエスは答えて言われた。「はっきり言うておく。人は、新たに生まれなければ、神の国を見ることはできない。」

3:5 イエスはお答えになった。「はっきり言うておく。だれでも水と霊とによって生まれなければ、神の国に入ることはできない。

私たちは、肉体に属しているものです。目に見えるものの世界に生きています。しかし、私たちは的を外れに生きるようになってから多くのものを失ってしまいました。神様の視点に立

って神様の御思いに生きるということができなくなってしまいました。神様のお住まいを離れ、神様の息づかいを聞くことなく、言葉を聞くことなく、人はあたかも自由に生活して参りましたが、最も大切な、神の御心に生きるということに欠落して生きています。この欠落している大切な部分が霊によって生きるということです。神様が引き寄せてくださらなければ、誰もイエス様をこの霊の目で見、神のみ元から来られた救い主であると信じることはできません。単なるヨセフとマリアの息子大工のせがれ、我々と何ら変わらない一人の人間ではないか。そしてそれ以上の見る目を持っていないという、それが人間の姿ですけれども、神様がお遣わしになって引き寄せてくださるそのような人にとっては聖霊により、イエス様こそが私たちのために特別に神様が遣わしてくださった方なのだということを知ることができるのです。

イエス様はその人を終わりの日に復活させてくださいます。

45 預言者の書に、『彼らは皆、神によって教えられる』と書いてある。父から聞いて学んだ者は皆、わたしのもとに来る。

46 父を見た者は一人もない。神のもとから来た者だけが父を見たのである。

47 はっきり言うておく。信じる者は永遠の命を得ている。

神によって教えられ生きる。それが人の道です。的外れに生きてしまうことがないようにと生きることこそが大切です。

神様の御教えを軽んじて蛇の唆しに乗って人は大きな恵みを失ってしまいました。

人はみな神によって教えられなければ軌道を逸してしまう存在です。

「父から聞いて学んだ者は皆私の元に来る」神様から学ぶことによってイエス様に会うことができます。人が傲慢を捨て、自らの力にも蛇の唆しの声にも耳を傾けず、神によって教えられるとき、父から聞いて学ぶときイエス様のもとに来ることができます。父を見た者は一人もない。神のもとから来た者だけが父を見たのである。神のもとから来たイエス様だけが父なる神を知っています。そしてそのお方が今、心素直なもの、へりくだった者、父からの教えを待ち望む者よ、我がもとに来たれ、神の元から来た者、メシア救い主神の子私があなたを教えると、私たちは引き寄せられ出会うことができるのです。

私の父から学びたいと願う者よ、我がもとに来たれ。そのお言葉をいただいて、イエス様のお言葉を味わうことができることを感謝したいと思います。

47 はっきり言うておく。信じる者は永遠の命を得ている。このイエス様を信じる人は永遠の命を得ています。

48 わたしは命のパンである。

49 あなたたちの先祖は荒れ野でマンナを食べたが、死んでしまった。

50 しかし、これは、天から降って来たパンであり、これを食べる者は死なない。

51 わたしは、天から降って来た生きたパンである。このパンを食べるならば、その人は永遠に生きる。わたしが与えるパンとは、世を生かすためのわたしの肉のことである。」

このパンを食べるならばその人は平和に生きる。信じる者は永遠の命を得ている。私があなたの糧となり食べ物となり命となることを信じなさい。私の肉、つまりこの肉体を十字架に捧げて私が成す贖いの意味を考え信じなさい。そうすればあなたは永遠の命を得る。そうすれば私はその人を終わりの日に復活させる。これがイエス様の救いであり福音、よき知らせです。

イエス様は人を的外れの、深い罪の深みから引き上げるためにご自身が身代わりとなって罪

の代価となって下さり、わが子達のための糧となり命となり救いとなるがために天から下って来られました。子なる神。そのお方が人となって、私たちのために生まれてくださったのです。52 それで、ユダヤ人たちは、「どうしてこの人は自分の肉を我々に食べさせることができるのか」と、互いに激しく議論し始めた。

53 イエスは言われた。「はっきり言うておく。人の子の肉を食べ、その血を飲まなければ、あなたたちの内に命はない。

十字架の事まで見渡すことのできないこの人達にとって、十字架が分からないこの段階では無理からぬこととは思いますが、イエス様が語っておられることとは、彼らの字義通り、表面上のことを考えているばかりで困惑していることとあまりにも落差があることに気づきます。

6:53 イエスは言われた。「はっきり言うておく。人の子の肉を食べ、その血を飲まなければ、あなたたちの内に命はない。6:54 わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者は、永遠の命を得、わたしはその人を終わりの日に復活させる。

6:55 わたしの肉はまことの食べ物、わたしの血はまことの飲み物だからである。

6:56 わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者は、いつもわたしの内におり、わたしもまたいつもその人の内にいる。

さらにイエス様は、彼らの誤解を恐れずにはっきりと語られました。人の子の肉を食べ、その血を飲む者は永遠の命を得る。 私たちにははっきりとその意味が聖霊によってイエス様が語られることの意味がはっきりと分かります。イエス様はそこまで私たちの身代わりとしてご自身を十字架にささげ尽くしてくださいました。その肉体を余すところなく捧げ、その血潮を注ぎ尽くして私たちのための本当の食べ物、私たちのための血潮として、身を捧げて下さいました。私たちが永遠の命を得て神の間に赦しを得て、その的外れの罪を赦され、神の園にて生きることができる道を回復してくださったということ、終わりの日に復活させて頂いて神の都に上らせていただくということを私たちは信じております。 私の肉はまことの食べ物 まことの飲み物。58 これは天から降って来たパンである。先祖が食べたのに死んでしまったようなものとは違う。このパンを食べる者は永遠に生きる。」あなたたちの先祖は荒れ野でマンナを食べたが死んでしまった。朽ちる食べ物のためではなく、いつまでもなくなるので永遠の命に至る食べ物のために働きなさい。これこそ人の子があなたが たに与える食べ物であると27節で主がおっしゃったとおりです。

56 わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者は、いつもわたしの内におり、わたしもまたいつもその人の内にいる。

またこれは聖餐式の恵みを深く覚える御言葉です。パンとぶどう酒をいただく その時にこの御言葉を私たち思い起こすのです。「わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者は、いつもわたしの内におり、わたしもまたいつもその人の内にいる。」

私たちは主が肉体を捧げ、贖い代となって下さったことに深く感謝を捧げます。そして命をささげて新しい契約となってくださったこと、あがないとなってくださったこと に心から感謝して聖餐式にあずかります。

私たちの内にいつもイエス様が共にいてください。そして私たちもイエス様の内にいるという事をいつも聖餐式の旅に私たちは思い起こすことができるのです。

57 生きておられる父がわたしをお遣わしになり、またわたしが父によって生きるように、わたしを食べる者もわたしによって生きる。

神様はいつも生きておられます。そしてイエス様をお遣わしになり、生ける父によっていつも生きて、命に生き、命と恵みを与える御業をなさり、死から復活なさいました。そのようにイエス様を深く心の中に味わって信じるものこと、「イエス様こそ私の真の糧真の飲み物、私のすがるべきよすがである」と信じ切っている人は主によって生きるとそのように語られています。

58 これは天から降って来たパンである。先祖が食べたのに死んでしまったようなものとは違う。このパンを食べる者は永遠に生きる。」

59 これらは、イエスがカファルナウムの会堂で教えていたときに話されたことである。

人々が不思議なことと思う話は続きます。次の個所には、これはひどい言葉だと言って、イエス様を捨てて離れていく人もいました。しかし信じイエス様に従って行く人もいました。そのように従った人たちは、彼らはみな神によって教えられる者でした。父から聞いて学んだ者は皆私の元に来る。父を見た者は一人もない神の元から来た者だけが父を見た。はっきり言っておく信じる者は永遠の命を得ている。あなたたちの先祖は荒れ野でマンナを食べたが、死んでしまった。

はっきり言っておく。信じる者は永遠の命を得ている。

わたしは命のパンである。しかし、これは、天から降って来たパンであり、これを食べる者は死なない。永遠の命を得、私はその人を終わりの日に復活させる。

真の食べ物、真の飲み物として私たちのため、命を捧げてくださった方を心から信じ、感謝と尊敬と従順とをもってこのお方にお従いしていきたい、そう願います。父なる神様のもとに進みあなたから学ばせていただきたいと願っております。そのような私たちの一週間の歩みが祝されることを信じて感謝したいと思います。

◇祈禱；天の父なる神様、今日の礼拝を感謝します。自らの至らなさのゆえに、神様からの恵みを受けるにふさわしくないとのさばきを受けてエデンの園から追放された人類でしたが、神様はずっと長きにわたり、人のために帰る道を考えて下さり、ついに十字架のもとに、イエスキリストの肉体と血潮とによって身代わりの贖いの捧げものを私たちのために与えて下さり、私たちが生きるようにして下さいましたことに、心から感謝を捧げます。子供からお年寄りまで、あらゆる年齢の方々が、この時こそ教会にて、イエス・キリストに出会うことができますようにお願いいたします。私たちの家族と、地域の方々を祝福して下さい。主イエス様の御名によって祈ります。アーメン